

◎URA× 人社系研究発信

人社系の研究発信の取組
ー京都大学Academic Grooveの企画・発行を中心にー

2021年9月15日

京都大学 学術研究支援室（KURA）

人社系グループ

稲石 奈津子

京都大学



SIGNAL

Kyoto University

ACADEMIC GROOVE Vol. 1: SIGNAL

Humanities and Social Sciences

KURA



Kyoto University

ACADEMIC GROOVE Vol. 2: BORDER

Humanities and Social Sciences

KU



人社会未来形態ユニット



BORDER

1

位置づけ・背景

2

基本コンセプト

3

編集方法・内容

4

感想・反響・意見

1

位置づけ・背景

2

基本コンセプト

3

編集方法・内容

4

感想・反響・意見

KURA人社系URAの複合的活動

人社系部局支援業務

文学研究科、教育学研究科、法学研究科、
経済学研究科、経営管理研究部、公共政策連携研究部、
人文科学研究科、経済研究所、総合博物館、
学生総合支援センター、大学文書館
アジア・アフリカ地域研究研究科、東南アジア地域研究
研究所、こころの未来研究センター
人間・環境学研究科、総合生存学館（思修館）、高等研究院、
高等教育研究開発推進センター、国際高等教育院

部局研究者

Pre-Award
Post-Award

KYOTO UNIVERSITY

人文・社会科学系研究の推進

+ 国際Gの兼担業務

指定国立大学関連業務

人社未来形発信ユニット

京大プロボストオフィス、ユニット

京大人社系研究者

人文・社会科学系 研究支援プログラム

外部資金獲得プロジェクト
資源整備・成果公開プロジェクト
研究力の可視化プロジェクト

全国の人社系研究者

各種プログラム

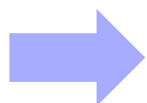
海外出身研究者支援プログラム
分野横断プラットフォーム構築事業、
SPIRITS伴走支援

京大研究者

研究力強化

人文・社会科学系 研究支援プログラム

3つのプロジェクト + 1



人文・社会科学系研究支援プログラム
とは？

京都大学学術研究支援室（KURA）の人社系
グループを中心に、
部局を超えて人文・社会科学系研究支援に
必要な基盤整備を行うプログラム

KYOTO UNIVERSITY

外部資金獲得プロジェクト

人社系ニーズに沿った資金獲得支援

- ・ プレ／ポストアワード支援の体系化
- ・ 人社系に特化したファンドの学内説明会開催
- ・ 大型・国際・学際・社会課題解決型のチーム形成支援 など

資源整備・成果発信プロジェクト

多様な研究資源や成果出版物の情報発信

- ・ 新たな成果発信方法に関する情報収集（出版、翻訳助成など）
- ・ 新刊書籍の情報発信「京大新刊情報ポータル」
- ・ 学内連携プラットフォームの構築支援 など

研究力の可視化プロジェクト

「成果が見えにくい」研究を可視化するための調査・提案

- ・ 定性評価フォーマットの検討
- ・ 分野別の特性に関するヒアリング・分析
- ・ 国内外の動向調査 など

他大学・機関との連携、業務成果発信

- ・ 「人社系フォーラム」年次大会、情報共有会の開催
- ・ 業務成果の広報・発信

海外書籍出版相談窓口、セミナー開催

資源整備・成果発信プロジェクト

2020年度実績

海外書籍出版相談窓口

<https://www.kura.kyoto-u.ac.jp/support/shoseki/kaigai/>

情報提供サイト（日・英）KURAのWebサイトに2019年6月オープン

- ・問い合わせ先案内
- ・イベント情報
- ・お役立ち情報リンク

海外出版FAQ（学内限定）

出版社ごとの詳細情報（学内限定）

ほか、翻訳者、編集者コミュニティへのリンクなど

海外書籍出版セミナー

- ・「編集者と語る海外書籍出版セミナーと個別相談」
海外出版社Routledge（7/6オンライン開催）とのセミナー開催
ゲストスピーカー：社会科学担当編集者 Simon Bates氏、
同社から書籍を出版した齋藤嘉臣・人間・環境学研究科准教授
- ・編集者との個別オンライン相談会開催（7/7-7/9）

出版相談窓口：

相談件数 合計12件の内、

- ・プロポーザル提出支援 2件
- ・相談対応 9件
- ・出版実現（契約締結） 1件

海外書籍出版セミナー

参加者合計 26名
個別面談設定のべ 9名
Webアクセス数
告知 183件、報告 16件（KURA）
インタビュー 114件（歩きかた）

KYOTO UNIVERSITY

京都大学 | Kyoto University Academic Service

研究支援情報

No.5 Events and Seminars

イベント案内

着想
Generating Ideas
1st STAGE
アイデアをまとめる
アイデアの共有

研究
Research
2nd STAGE
論文の執筆、議論の構築、
フィードバック、査読、
アイデアの実現などのステージ

成果
発信
Outreach
3rd STAGE
学内外への発信

外部資金
獲得
Acquisition of Grants

編集者と語る 海外書籍出版 セミナーと 個別相談

Academic book
publication seminar
and consultations
with the editor

In this specially organized interactive seminar via Zoom, a commissioning editor from Routledge will discuss the various steps involved in publishing academic books. This workshop will be ideal for anyone who is aiming to publish their research work, including edited volumes and PhD theses to be turned into monographs, in the English language. During the seminar, a KU author recently published from Routledge will share his experiences. There will also be slots for individual consultations with the editor, so book a slot for a Zoom meeting.

人社系学術出版の大手Routledge社の編集者とZoomでつなぎ、海外出版のイロハをご紹介します。博士論文をもとにした英文出版や既刊本の翻訳出版、研究会の成果をまとめた編著をお考えの方、その支援をされる方、歓迎です！
セミナーでは本学研究者による出版経験談が聞けるほか、セミナー終了後、3日間に渡りZOOMでの個別面談も受け付けます。

[セミナー] Seminar

Monday 6th July 2020

Language English (partly in Japanese)
Eligibility Anyone is welcome
15:00-15:10 Introduction by KURA
15:10-15:30 Publishing your book with Routledge
Simon Bates Commissioning Editor, Routledge, Singapore
15:30-15:45 My experience as an author
Yoshiomi Saito Associate Professor, Graduate School of Human and Environmental Studies
15:45-16:15 Q&A and interactive session

[個別面談] Individual consultation

Tuesday 7th to Thursday 9th July

- ・希望多数の場合、早めに締切の可能性もありますのでご注意ください。
- ・Please note early closure of booking might be possible if the slots are filled.

[お申し込み] Please register at
<https://www.kura.kyoto-u.ac.jp/en/event/20200706/>

Contact URA Office (Sasaki) via; E-mail: jinsha@kura.kyoto-u.ac.jp Phone: Ext. 16-5162 or 075-753-5162

KURA 京都大学学術研究支援室 2020年度
Kyoto University Research Administration Office (KURA)

京都大学 研究支援情報 Search

人社系海外出版書籍の オープンアクセス（OA）化事業

人社未来形発信ユニットでの事業化を前提に
2019年度KURAで試行

<https://www.kura.kyoto-u.ac.jp/act/694/>

2020年度は指定国立大学「人文・社会科学の
未来形発信」の事業として実施

2020年度実績

Brill社	単行本	1冊
Routledge社	単行本	6冊
	章	1章
Springer社	単行本	2冊
	章	4章

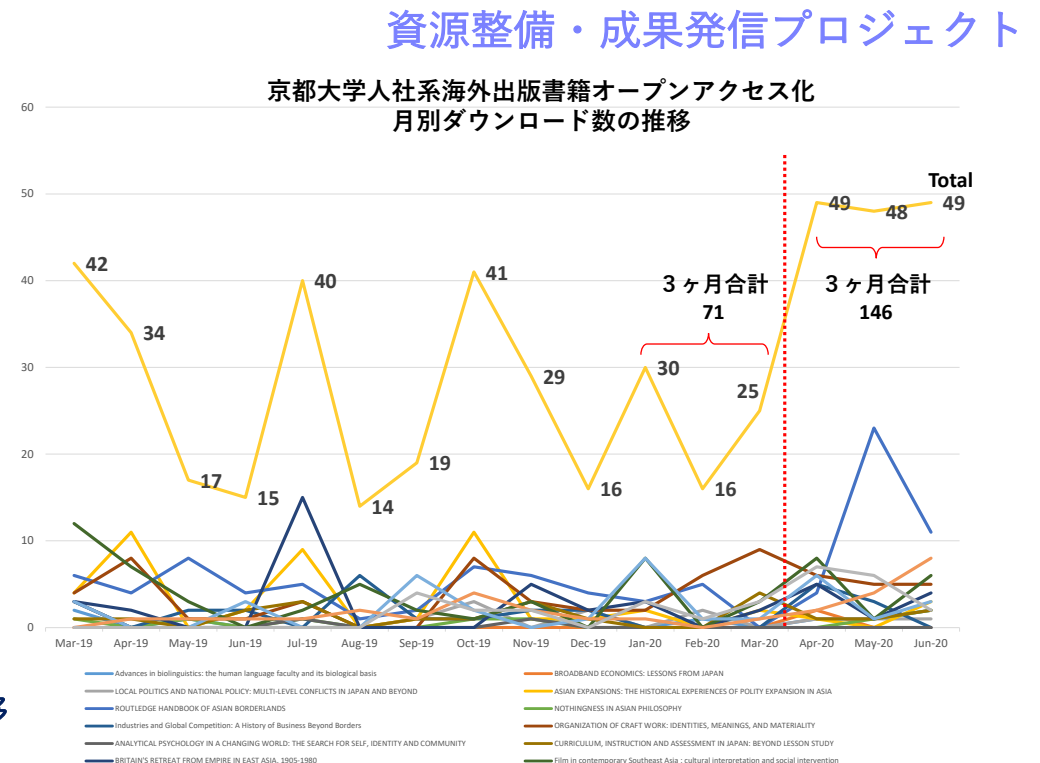
合計9冊 5章のオープン
アクセス(OA) 化が実現

支援を受けた研究者からの感想：

・拙著の英語版はあまりに高価なため、ごく限られた読者にしか届かないことを悲観して
おりましたが、調査対象地のインドの方々をはじめ、
多くの方に読んでいただける可能性を賜りましたこと、
心より御礼申し上げます。

KYOTO UNIVERSITY

参考：2019年度OA化実施
Routledge分 OA化前と
OA化後のダウンロードの推移



人社ユニットのサイト
にも掲載



提案する
人文・社会科学

指定国立大学 人文・社会科学の 未来形の発信

京都大学 指定国立大学法人構想概要

京 都 大 学
基 本 理 念

創立以来築いてきた自由の学風を継承し、発展させつつ、
多元的な課題の解決に挑戦し、**地球社会の調和ある共存に貢献する**

新たな知の創造・イノベーションの確立・未来社会への指針を示すための取組を実行

柔軟かつダイナミックな体制による知の創造

- 複数の領域で世界の最先端研究をリード
- 融合領域の新規開拓、強い分野の国際展開

1 世界を先導する最先端研究の推進

1) 再生医療と先端医学研究

- ・人々の健康と超高齢社会における医学医療の未来創成に貢献

2) 化学と生命科学の融合

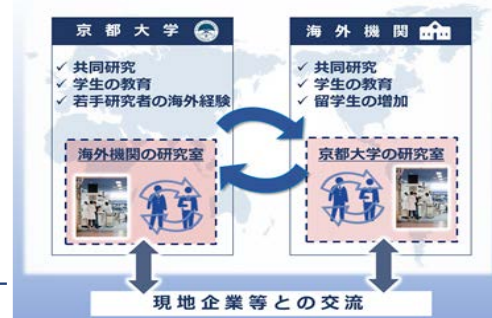
- ・広範な領域で新しい学術分野の開拓

3) 高等研究院

- ・卓越した研究者の英知が結集する国際研究ハブ

2 On-site Laboratory

- ・海外の大学や研究機関等との協働による現地運営型研究室(下図:イメージ)



高度で多様な頭脳循環の形成

- 教育の一層の国際化
- 多様な人材の育成・輩出、優秀な人材獲得

学生対象

1 吉田カレッジ (仮称)

- ・国内外の学生に開かれた国際学部教育プログラム

2 卓越大学院 (仮称) プログラムによる 博士人材 (「知のプロフェッショナル」) の 育成

3 GST (Graduate Student Training) センター (仮称)

- ・大学院生の教育研究能力向上のための全学研修体制の構築

4 留学生リクルーティングオフィス (仮称)

- ・優秀な留学生の戦略的獲得の推進

5 大学院生・留学生への各種施策の展開

研究者対象

1 白眉プロジェクト

- ・学術領域を問わず世界中から優秀な若手研究者を獲得

2 若手教員数の増加

- ・第4期中期目標期間内に定員内若手教員比率を30%に引き上げ

新たな社会貢献を目指して

- 産官学連携活動を推進する体制の構築
- これまでの学術的成果を背景とした現代世界の諸課題解決への貢献

産官学連携

1 産官学連携の新しい「京大モデル」の構築

- ・大学出資による機能別事業子会社の設立・運営
- ①総研機能 (コンサルティング・シンクタンク事業等)
- ②技術移転機能
- ③ベンチャー支援機能
- ・ホールディング・カンパニー (持ち株会社) の設立を志向

2 既存の枠組みにとらわれない 産官学連携の促進

- ・「組織」対「組織」による共同研究スキームをより一層推進

社会への貢献

1 日ASEANの協力関係のより一層の推進

- ・包括的な学術・科学技術協力の推進により、「持続可能な開発」に貢献

2 人文・社会科学の未来形の発信

- ・国際化の推進、文理融合による新学術領域の創成

世界に伍する京大流大学運営

- 大学運営におけるトップダウンの方針とボトムアップの意思の調整に基づく全学的な戦略立案の必要性
- 大学独自の戦略的活動を支える安定的な自己財源の必要性

ガバナンスの強化

1 京大版プロボストと企画調整会議 (カウンスル) (仮称)

- ・執行部と部局・学系間との密接な連携調整のもと企画・戦略立案

2 国際的視野によるエビデンスベースの大学運営 (国際戦略本部、IR、URA)

財務基盤の強化

1 自己収入の拡大

1) 寄附金

2) 社会人学習プログラム

3) 資産の有効活用

2 収益事業の展開

人社未来形発信ユニット

Vol.1 SIGNAL

2019年度：

発行・編集：KURA

提携：人社未来形発信ユニット

Vol.2 BORDER

2020年度：

発行：人社未来形発信ユニット発行

編集：KURA

KYOTO UNIVERSITY



1

位置づけ・背景

2

基本コンセプト

3

編集方法・内容

4

感想・反響・意見

京都大学Academic Groove企画概要

(2019年4月企画書)

- ・ 人社系研究の発信を目的として、京都大学人社系研究・研究者を**斬新な切り口で紹介する紙ベース小冊子**を作成する。
- ・ フリー編集者の清水修氏が手がけ**2008年に東京大学が発行したAcademic Grooveという冊子の事例を参考に**、清水氏に協力を依頼し、**“京都大学版Academic Groove”**を作成する。

TOP > ACADEMIC GROOVE



ACADEMIC GROOVE

東京大学アカデミックグルーヴ

東京大学 編

ISBN978-4-13-003330-5, 発売日:2008年04月07日, 判型:A4, ページ数:
120頁

人文科学 > 一般
社会科学 > 一般
自然科学 > 一般

税込1,320円
本体1,200円

品切れ・重版未定

オンライン書店で購
入

・ Amazon
・ 紀伊國屋書店
・ honto
・ セブンネットショ
ッピング
・ e-hon 全国書店ネ
ットワーク
・ 楽天ブックス
・ Honya Club.com
・ TSUTAYA online
・ HMV&BOOKS
online
・ ヨドバシ.com

東京大学出版会
から購入 >>

内容紹介

真の学問の場には、独特な「わくわくするほど楽しい雰囲気」が漂っています。私たちは、この雰囲気をアカデミック・グルーヴと名づけました。創立130周年記念出版物『アカデミック・グルーヴ』は、いわば、東京大学から始まる知的ルネッサンスの第一歩。中高生には「学びの動機付け」として、社会人には「知的好奇心喚起の起爆剤」として……ぜひ、「体感」してほしい一冊です。

主要目次

- ・「あなたにとってAcademic groove とは？」
- ・【Academic Map】学問を地図化する
- ・特別インタビュー「私が学問にgroove を感じた瞬間」
- ・【Academic Tour】学問の国 旅行ガイド
- ・【Academic Translation】難しい論文、翻訳します！
- ・【同語異義】重複定義用語辞典
- ・【Academic Attitude】すべての学説は仮説である…か？
- ・【知の断面図】異分野学問をひとつのテーマでcut！
- ・【先人への手紙】受け継がれる「知」への思い
- ・Visual Academic Essay
- ・対話——dialogue

東京大学 mini Academic Groove

mini ACADEMIC GROOVE

東京大学では学問のわくわく感を伝えるフリーペーパー【ミニ・アカデミックグルーヴ】4種類を発行しています。

【ミニ・アカデミックグルーヴ】4種類はテレメールを利用して取り寄せることができます。パソコンまたは携帯電話から以下のURL、またはTEL（自動応答電話）にアクセスして、資料請求番号をご入力ください。送料（後納）はご負担ください。

※ テレメールで資料請求

【TEL】050-8601-0101（24時間受付）



SYNAPSE【ミニ・アカデミックグルーヴ】

【資料請求番号】567425 【送料】140円（後納）

脳科学とアートの融合を目指す『synapse』は、ニューロンの「パターン・カタチ・リズム」からあらゆる学問の「カタチ」を経て「脱パターン」の高みへ到達する。そして、「名を名乗らぬ者」NOSIGNERが手掛けた赤いアートワークは、あなたをパターンの迷宮へと誘う。



KYOTO UNIVERSITY

Academic Park【ミニ・アカデミックグルーヴ】

【資料請求番号】567435 【送料】180円（後納）

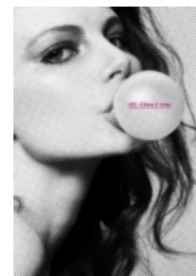
「知」の世界を「遊園地」に見立てて様々な研究分野を紹介したキュートなブックレット。ひとりの少女の心象風景を追いながら「学問のワンダーランド」の姿が徐々に明かさせていく。世界中の知識を楽しめる『Academic Park』は、実は、少女の心の中にあったのだ。



LIFE-Chew it over【ミニ・アカデミックグルーヴ】

【資料請求番号】567445 【送料】180円（後納）

人生なんてチューインガムみたいなもの……そんなパンキッシュな発想で作られた『LIFE-Chew it over』。A3サイズの大判 ACADEMIC GROOVE が、誕生、成長、葛藤、成熟、終末と進む「人生」の各ステージの本質を多彩な学問の視点から読み解いていく。



CHOICE【ミニ・アカデミックグルーヴ】

【資料請求番号】568125 【送料】240円（後納）

限りなく連続する選択のはてに、目の前の現実が立ち現われている……『CHOICE』は「選択」をキーワードに世界を読み解き、未来を模索するフリーペーパー。様々な「知」が選択の諸相を描き出し、選びとるべき何かを示してくれる。

【CHOICE】PDFダウンロード [20MB]



<https://www.u-tokyo.ac.jp/content/400005057.pdf>

コンセプト

- ・ **人社系研究の発信**を目的として、本学人社系研究・研究者を斬新な切り口で紹介する。
- ・ 研究紹介広報誌というより、**カルチャーマガジンのような位置づけ**。
- ・ **デザイン性を重視**し、**若者層が人社系研究に興味を持つ**ような誌面作りを。
- ・ 現在の研究紹介の主流である「やさしくわかりやすい研究の紹介」とは住み分け、**「少しハードルが高く感じられるかもしれないが、研究のありのままの面白さを伝える」**がコンセプト。
- ・ そのためには**テーマ設定がポイント**。**普遍的で汎用性は広いが深みのあるテーマ**設定を。
- ・ また、媒体としても主流であるWebとは住み分け（特に京大内にもWebでの紹介は増えてつつあるため）、**人社系らしさを生かして紙媒体**としたい。

(2019年4月企画書)

背景

- ・ 普段、人社系研究者と縁のない人に、京大の人社系研究の一端、その面白さを伝えるためには？
- ・ 無料の冊子を配布することで、能動的に情報にアクセスする層とは別の層に情報を届けられるのでは？ **Web文化により進行するクラスター化からの回避。**
- ・ アカデミックデイのアンケートでは、「人社系の研究をもっと知りたい」「人社系研究者の話が聞きたい」といった意見が幾つか見られるが、人社系の研究者の参加は毎年声がけしていてもなかなか増えない。これは**人社系研究の大半の分野ではポスター発表という文化がない**ことに起因しているように思われる。ニーズに応えるために別の方法が考えられるのでは？

(2019年4月企画書)

+ 科研費支援を通じて、様々な研究者の研究内容に深く触れ、その面白さを知っている。
人社系の研究者の多様な研究内容を、もっと多くの人に知ってもらいたい。

ACADEMIC GROOVEとは、学問の現場に漂う
「わくわく感」やノリ、すなわちグルーブのこと。
「SIGNAL」「BORDER」はこのACADEMIC
GROOVEを社会に伝えるために作成されました。

1

位置づけ

2

基本コンセプト

3

編集方法・内容

4

感想・反響・意見

作成内容・スキーム

- ・フリー編集者の清水修氏が手がけ2008年に東京大学が発行したAcademic Grooveという冊子の事例を参考に、清水氏に協力を依頼し、“京都大学版Academic Groove”を作成する。
- ・**教員・事務職員・URAが協働しての誌面作りが理想であったが**、予算の関係でページ数が限られるため、テーマ設定のワークはKURA人社系URAで実施？執筆を教員に依頼する。インタビューなどは経費削減のために自前で実施、原稿作成。
- ・**テーマ設定時と編集段階で合計3回ほど清水氏に来洛をお願い**し、ワークや打ち合わせを実施する。
- ・**まず冊子の核となる大テーマを決める**。初回打ち合わせ時にまでに**各自3つのテーマ案を考えておく**。
- ・**効果測定**のために、アカデミックデイでのアンケート実施、冊子にQRコードを掲載してのアンケート収集を行う。

(2019年4月企画書)

編集会議

- ・ まずは清水氏との初回の打ち合わせで、**3号分の大テーマを決定。**

Vol.1 SIGNAL

Vol.2 BORDER

Vol.3 TRACE

- ・ SIGNALというテーマで、次回の編集会議までに各自企画を立案。
- ・ 2回目で清水氏と編集メンバーに**各自の企画をプレゼン**。採用する企画を決める。
- ・ 3回目で清水氏が各担当と企画の内容、執筆をお願いする研究者を検討。
- ・ その後、清水氏とメールのやり取りで執筆者、依頼文字数などを決めて、各企画担当者から執筆依頼。

1

位置づけ

2

基本コンセプト

3

編集方法・内容

4

感想・反響・意見



SIGNAL

あなたにとって、学術的発見の SIGNAL とは？

研究者が何かに気づく瞬間、発見をする瞬間、成果を生み出す瞬間、必ずきっかけとなる SIGNAL が存在する。日々蓄積され続ける巨大な学術体系はすべて SIGNAL を源とする。

史料や遺跡に、虚心に向き合っていると感じる「違和感」。それに対して湧き上がる「クダラナイ思いつき」。そのうちのひとつがふたつが、いろいろな事象と結びつき始めて「仮説」へと昇華する。ふわとした手応え。『源朝臣(源氏物語、日本古代史、文学史)』

予感⇒直感⇒確信

稲垣誠(仏教学、タベト、ブタノ)

フィールドでみつけた小さなひらめき。それを新しい言葉にする。そしてフィールドで何回も確かめてみる。そこから世界を説明することが始まります。『石川俊(人文学、東洋アジア地域研究)』

史料分析の辛さから逃げるように小説を読んでいると、ある言葉が、落雷のようには史料の価値を伝えることがある。『源朝臣(源氏物語、日本古代史、文学史)』

人の間、種の間、細胞の間など色んな次元で伝達されるシグナルを、好奇心のアンテナで感じるフィールドワーク。『古澤裕昭(地域研究、人間生活史、東洋アジアの文化研究)』

「誰も意識していなかった問題を思いいついたとき」が答えです。無論それに至る過程では膨大な資料、統計データ、方法を求めていく過程は、地道な作業の試行錯誤を繰り返す必要があります。『源朝臣(源氏物語、日本古代史、文学史)』

古典文学を読んでいて感じる違和感。それは作品を読み解いているか。古人の心を理解していないということ。『源朝臣(源氏物語、日本古代史、文学史)』

悪魔は細部に巣くう

山内祐(総論、文学、文学)

同じことを違う仕方で行くということ、これに尽きます。思想系の研究は、結局同じ一つの問いを深め続ける作業ですが、それだけでは飽きまの場所から、別の言葉で、場合によっては別の言語で、同じ問題を語り直してみること。同じ問いを交差点とする何本もの道を放射状に通るうちに、同じ問いが新しくなっています。『杉村謙彦(東洋学、フランス、京都学)』



アウトプット

6,000部印刷、4,000部強配布済み

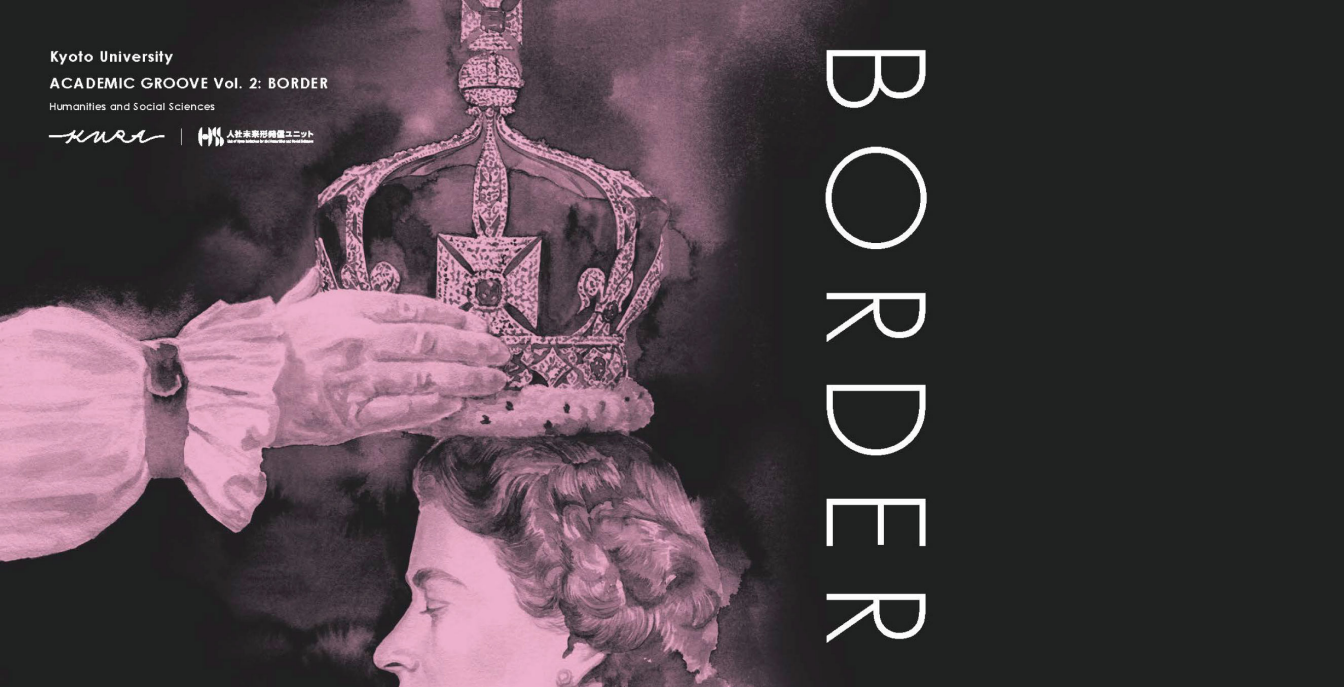
KURAサイトにバナー掲載
Webアクセス数 262件
(2020.3月末時点)

配布イベント：京都大学ホームカミングデー (800)、「東京で学ぶ京大の知」シリーズ (200)、京都大学未来フォーラム (150)、人社未来形発信ユニットシンポジウム (50)、ユニットELCAS (60)、京大変人講座 (40)、関西RA交流会 (30) 他

配架：京大内生協各所 (500)、時計台 (200)、GACCOH、出町座、ゲーティンSTITUTE、関西日仏、MTRL Kyoto、カフェ等

展示・配布

- ・京大アカデミックデイ2019に出展、100名程立ち寄りあり説明
- ・11月のホームカミングデーを皮切りに各種イベントなどで印刷版を配布。書店やカフェにも置き、人社系研究に縁のなかった人たちにその面白さの一端を伝えることに貢献。



アウトプット

コロナ禍のため、PDF版で発行

- ・ 人社未来形発信ユニットWebサイト
アクセス数 ? 件
 - ・ KURA Webサイト
アクセス数 306件 (2021.3月末時点)
 - ・ 京大学術情報リポジトリKURENAI
ダウンロード数 100件
- 他、メールなどで告知・広報

Vol.2 BORDER

展示・配布

- ・ 2020年度はコロナで様々なイベント開催がほぼ見送りとなったため、**印刷は行わず、PDF版のみで展開。**
- 2021年度にアカデミックデイなどのイベント開催が可能となった場合、Vol.2を印刷したい。

- ・この**センスとライティング**は大学ウェブサイトでも欲しいです。（京大・Web関連）
- ・この冊子はすばらしい。**紙媒体はやっぱりインパクトがある**。デザインも美しく、**当研究所としてもお手本にしたい**。（京大・研究者）
- ・素敵な編集ですね。京都大学の冊子とは思えない洗練されたデザインです。内容も**気鋭の先生方のエッセンスが詰まった文章で楽しく拝読いたしました**。次号も期待しております。（京大・研究者（執筆者））
- ・非常に**刺激的な内容**で、楽しく拝読させていただきました。（省庁・職員）
- ・財団が実施している若者文化交流とも繋がりがある。こうした**斬新なデザインで学術文化を発信する冊子はみたことがなく、参考にしたい**。（財団・職員）
- ・正直な印象を申し上げるなら、ちょっとオシャレすぎて、**パッと見て何の冊子なのか**、また中身もどう読んでいけばよいのか、**少しわかりにくい**ように感じました。（京大・研究者）
- ・とてもかっこいいです。**こういうセンスで新たなオーディエンス層にアピールすることは大事だと思います**。（京大・Web関連）
- ・**一般の方に対して、一度にたくさんの研究者を紹介する手法として、この手法はアリ**と思った。また、冊子の性質が、京大全体をターゲットにしているエッジを効かせているので、**特定の部局、事務部では作れない作品**と思われます。**賛否両論あると思いますが、尖がった取組を引き続きお願いいたします**。（他大学・職員）
- ・こういった、**アカデミック領域とは全く違った分野に興味を持ってそうな人に対するアプローチはとてもいいと思います！**（一般）
- ・**良い意味で大学の広報物だという印象は受けませんでした**。長さ（厚み）もちょうど良く、読みやすかったです。（他大学・URA）

- ・無料では申し訳ない充実した内容、ご提供ありがとうございます。

読後「あなたは境界をどう捉えますか。それは何故ですか。境界にどう向き合いますか。」など、いろいろ問われた気がしました。自分なりに考えてみます。

大昔に大学の文系学部を卒業後は、IT企業で理系とビジネスの世界に身を置いていたため、文系領域はご無沙汰です。今回本誌や「立ち止まって考える」シリーズで文系の研究領域の多彩さ・奥深さを知り、新たな興味が湧いて来ました。学びの機会をご提示くださり、ありがとうございます。（北海道・自営業）

アウトカム

- ・ユニットの活動、特に「立ち止まって、考える」とのリンク、相乗効果

評価・振り返り

- ・URAの仕事かどうかという意見
- ・コロナ禍の影響。Web媒体の強さ、利便性、今日性。冊子という媒体の見直し。

部局横断的活動—全学的な横櫛として

一分野や一部局に限らないこのようなオール京大人社系冊子は「KURAでないと作れない」という研究者のご感想も。

Kyoto University
ACADEMIC GROOVE Vol. 1: SIGNAL — Humanities and Social Sciences
Writers (Speakers)
齋藤嘉臣 (人間・環境学研究科 准教授)
熊谷誠悠 (こころの未来研究センター 特定准教授)
山内裕 (経営管理研究部 准教授)
太郎丸博 (文学研究科 教授)
柴田悠 (人間・環境学研究科 准教授)
高谷知佳 (法学研究科 准教授)
明和政子 (教育学研究科 教授)
金光桂子 (文学研究科 教授)
藤原辰史 (人文科学研究所 准教授)
古澤拓郎 (アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授)
高田明 (アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授)
石川登 (東南アジア地域研究研究所 教授)
馬場基 (人間・環境学研究科 客員准教授／奈良文化財研究所 史料研究室長)
佐藤卓己 (教育学研究科 教授)
清端佐登史 (経済研究科 教授)
杉村靖彦 (文学研究科 教授)
出口康夫 (文学研究科 教授)
若林靖永 (経営管理研究部 教授)
河野泰之 (東南アジア地域研究研究所 教授)
中嶋節子 (人間・環境学研究科 教授)
高木博志 (人文科学研究所 教授)
IVINGS, Steven Edward (経済学研究科 講師)
ミツヨ・ワダ・マルシアーノ (文学研究科 教授)
岡田温司 (人間・環境学研究科 教授)
岡田曉生 (人文科学研究所 教授)
坂本龍太 (東南アジア地域研究研究所 准教授)
佐藤俊哉 (医学研究科 教授)
長田哲也 (理学研究科 教授)
松田道行 (生命科学研究科／医学研究科 教授)
沼田英治 (理学研究科 教授)
漢文俊 (産官学連携本部 特定准教授)
蔭塚武史 (エネルギー科学研究科 助教)
高橋淑子 (理学研究科 教授)
布施静香 (理学研究科 助教)
岡本正明 (東南アジア地域研究研究所 教授)
川島隆 (文学研究科 准教授)
高山佳奈子 (法学研究科 教授)
KEVKHISHVILI, Rusudan (経済学研究科 講師)

SIGNAL裏表紙
執筆者一覧

Kyoto University
ACADEMIC GROOVE Vol. 2: BORDER — Humanities and Social Sciences
Writers
落合知帆 (地球環境学堂 准教授)
久野愛 (経済学研究科 講師)
Jeremy RAPPLEYE (教育学研究科 准教授)
福兼雄 (人文科学研究所 教授)
早瀬篤 (文学研究科 准教授)
鈴木基史 (法学研究科 教授)
村上由美子 (総合博物館 准教授)
山本真也 (高等研究院 准教授)
文世一 (経済学研究科 教授)
西山慶彦 (経済研究科 教授)
飯田珠子 (アジア・アフリカ地域研究研究科 特定助教)
小倉紀蔵 (人間・環境学研究科 教授)
町北朋洋 (東南アジア地域研究研究所 准教授)
重田眞義 (アジア・アフリカ地域研究研究科 教授)
内田由紀子 (こころの未来研究センター 教授)
稲谷陽彦 (法学研究科 准教授)
米家泰作 (文学研究科 准教授)
中濱和弥 (アジア・アフリカ地域研究研究科 教授)
伊藤順二 (人文科学研究所 准教授)
岩谷彩子 (人間・環境学研究科 准教授)
出口康夫 (文学研究科 教授)
瀬戸口明久 (人文科学研究所 准教授)
児玉聡 (文学研究科 准教授)
山本博之 (東南アジア地域研究研究所 准教授)
石川登 (東南アジア地域研究研究所 教授)
西平直 (教育学研究科 教授)
野村理朗 (教育学研究科 准教授)
中西竜也 (人文科学研究所 准教授)
貴志俊彦 (東南アジア地域研究研究所 教授)
坂出健 (経済学研究科 准教授)
佐々木健 (法学研究科 教授)
木下千花 (人間・環境学研究科 教授)
Björn-Ole KAMM (文学研究科 講師)
西秀実 (東南アジア地域研究研究所 准教授)
稲垣恭子 (教育学研究科 教授)
岡真理 (人間・環境学研究科 教授)
伊勢田哲治 (文学研究科 准教授)
LIU, Ting (経営管理研究部 講師)
高山敬太 (教育学研究科 教授)
Andrey KLEBANOV (文学研究科 特定外国語担当講師)
竹沢泰子 (人文科学研究所 教授)
畑中千絵 (こころの未来研究センター 特定講師)

BORDER裏表紙
執筆者一覧

各記事の内容と共に、構成、デザインも切れ味鋭く、
水滴が落ちた瞬間の刺激の様な印象を持ちました。

（京大・研究者〔執筆者〕）

Vol.1 SIGNAL

Vol.2 BORDER

KURAウェブサイト

<https://www.kura.kyoto-u.ac.jp/news/contents/629-3/>

<https://www.kura.kyoto-u.ac.jp/news/contents/20210201-2/>

人社未来形発信ユニットウェブサイト

<https://ukihss.cpier.kyoto-u.ac.jp/1553/>

<https://ukihss.cpier.kyoto-u.ac.jp/2384/>

京大リポジトリKURENAI

Vol.1（学術研究支援室 > 報告書等）

<http://hdl.handle.net/2433/261258>

Vo.2（学際融合教育研究推進センター > 人社未来形発信ユニット > 報告書等）

<http://hdl.handle.net/2433/261259>

連絡先・お問い合わせ 京都大学 学術研究支援室（KURA）人社系プログラム hsspg@kura.kyoto-u.ac.jp